

CSV 通信 4号

令和7年 2月発行
東京都立中野特別支援学校
校長 和田 慎也
文責:CSV 堀切 美和

【都立中高一貫教育校】 地区情報交換会～各校の取り組みより～

今年度も年3回の地区情報交換会が実施され、会場校より校内の特別支援教育の取り組みについて発表がありました。他校にも大変参考になり、良い取り組みが広がっていく会となっています。第2回、第3回の取り組みについて、会の中で出された内容をご紹介します。

8月23日:第2回

前期課程 特別支援教室について／後期課程 通級による指導について

- 特別支援教育心理士(月に1回)へ支援の必要な生徒をつなげている。
- 分掌主任を除いた企画調整会議メンバーと養護教諭等を入れて特別支援教育委員会を行っている。
- 校内研修会を年に2～3回実施しており、発達障害理解が進んできている。
- 中高一貫教育校では4年生までは進級できる。その後、進路変更を余儀なくされる生徒のケースがある。特別支援教育の視点をもった支援ができていたらもっと違ったのではないか。その反省から学校として体制をとっている。

12月16日:第3回

特別支援教育校内体制・合理的配慮について

- 令和4年度、特別支援教育プロジェクトチームが立ち上がりCSV教室・通級による指導の開始に向けた体制づくりがスタートした。教育相談委員会が位置付けられ、メンバーは管理職と特別支援教育コーディネーター、養護教諭、各学年・分掌から構成され、通級申請等の検討、時間割の調整、大学受験にむけた配慮申請を検討する場となっている。
- 情報共有システムの構築としては、生徒情報を随時書き込めるエクセルファイルをサーバで共有している。
- さまざまな合理的配慮を行っている。カームダウンスペース設置、イヤーマフの使用、給食の対応など学校生活支援シートを作成し支援実施している。また、視覚障害特別支援学校や聴覚障害特別支援学校との連携による支援も行っている。
- 定期考査の別室受験について、最初は学年教員のみで対応していたが、「大学入試にかかわる」という視点から学校全体での対応になり現在実施している。
- 中高一貫校として6年後大学入試を見据えて前期課程より動いている。

【中部地区】地区情報交換会の紹介

中部地区の拠点校は今までも各地区の様子に合わせ地区情報交換会を実施しています。今年度は中部地区の中で公開しあう取り組みも行われましたので、その一部をご紹介します。

<外部講師による講演会の実施>

王子特別支援学校では、障害者就業・生活支援センター WEL'S TOKYO 就労支援員 小池磨美様をお呼びして「発達障害・特別の配慮を要する生徒の将来を見据えた指導について」研修会を実施しました。Teams で中部支所の希望する学校に配信し情報共有しました。

中野特別支援学校でも、進路指導専任による「障害のある方の進路指導」、障害者就業・生活支援センター WEL'S TOKYO センター長 堀江美里様による「発達障害・特別の配慮を要する生徒の将来を見据

えた指導について」の研修会を実施しました。中部所内の学校及び会場校の荻窪高等学校の先生方に対面での公開も行いました。両校とも地域の高等学校のニーズから同じような内容の研修会の実施となりました。高等学校に在籍する様々な生徒への対応への支援を求められていることを改めて実感しました。



<高等学校の取り組みの紹介>

志村学園は、稔ヶ丘高等学校を会場に地区情報交換会を実施しました。会場校の特別支援教育コーディネーター 江口三知子先生より「稔ヶ丘高等学校の取り組み」として、学校設定科目「コーピング」の授業について、通級による指導での生徒の変化や教育相談体制など丁寧にお話しいただきました。また、「コーピング」の授業見学も実施し、実際に生徒たちがグループで話し合ったり、感想を言いあったりする様子も参観することができ参考となりました。同じ地域の中には様々なタイプの高等学校があり、実際の授業の見学や相談体制の説明を伺うことで、各高等学校も自校での取り組みへの気づきとヒントを得られていました。この地区情報交換会も中部地区の学校に公開されました。

今回ご紹介した中高一貫教育校及び中部地区のほか、東部地区、西部地区、島しょ地区においても、いろいろと工夫された地区情報交換会が行われています。都立版エリアネットワークにおける根っこの部分にあたるこの取り組みが、今後も創意工夫して行われるように CSV もお手伝いしていきます。

